



## 三十周年と孵化室新築を讃う

### —— 湧 別 事 業 場 ——

七月廿七日、折からの晴天に恵まれた湧別事業場では創立三十周年と第二孵化室の新築落成の記念式典で賑わった。

大正十二年六月大西氏等によつてはじめられた湧別事業場は、明治廿五年以來、紋別水産漁業組合によつて湧別川に監守人をおいて取締りを勵行させたことにはじまり、逐年減産を續ける鮭鱒に對して積極的な對策が苦慮されて造られたもので、當初鮭六〇〇万粒、鱒四〇〇万粒の收容設備をもつて紋別鮭鱒養殖水産組合が創設、昭和九年迄の辛酸を経て、その年の四月から國營に移管され、北海道廳西別鮭鱒孵化場附屬湧別孵化場と改稱し、設備は鮭五〇〇万粒、鱒三〇〇万粒とした。次いで同年七月廿八日には北海道鮭鱒孵化場北見支場とし、網走、宗谷兩支廳管内を擔當することとなつた。この事業場が支場として活躍したのは昭和十六年二月五日、現在の北見市え支場が造られる迄の七年間で、その後は北見支場湧別事業場の名稱を以て現在に及んでいる。

この間の経緯、特に道營移管迄の全く自主

的に推進された諸先達の苦心はこの日の席上で交々語られ、盡きざる興趣と、尊敬の念を深くさせたが、かつて汽車すら通らなかつた處も、現在では名寄本線で遠輕の次、開盛驛から指呼の間というこの事業場は一面の島に圍まれ、點綴する木立と森、背後に緩やかな起伏を見せて伸びている丘とはさながら西歐の繪で、夜のしじまと共に高くななく蛙の音も一入豊かな落着きを與えている。

正午の開式迄百名に余る參會者は新設孵化場とこの邊りを見て廻つたが、舊孵化室(第一)の展示會を見る人達よりは、小柄な大西氏や、大きな身體で大儀そうに休む遠峯氏、又古屋氏や阿部氏、遠く千歳から駆けつけた小林教司氏等の靜かに周圍を眺め廻わしている様子に心からなる想い出と樂しさがある様であつたし、新設の孵化室建設に専心盡力し、遂に今日の盛典を得さしめた飯塚、池田の兩氏、そして主任の佐藤技官等は一層忙しそうなそれでいて張りのある動きを示し、他の人達と共に三福對の今日の日を喜ぶ光景が動いていた。

舊孵化室は廳舎の直ぐ裏にある木造家屋で總數一〇〇〇万粒の施設を持つている。水は湧水でC六、一五度、流量毎分五石で水に心配はない。この事業場の敷

地は三七八三坪であるが、事務室、住宅、倉庫、養魚池と造られていると左様廣くはない。

新築の孵化室(第二)はこゝから正門を出て五百米、養魚池からでは三百米位の處に建てられている。繁茂した木立が刈りとられた中に木の香も新しく建つてゐるのを見ると余りにも周圍と懸けはなれたという感じが強い。左程周圍の原始的な風貌には馴染まない近代的な様子である。

敷地面積 一七七〇坪。收容設備 一〇〇〇万粒。  
 孵化室 木造平屋桁葺五八坪。孵化槽 アツトキン  
 ス式一間槽三三、二間槽三二。養魚池 周圍鐵筋コンクリート一〇〇坪。用水 湧水。水溫及水量 C  
 四度一五度、流量毎分四六石。導水設備 コンク  
 リート管内經七寸、長さ二四間。沈澱設備 コンク  
 リート沈澱槽一箇。

というのが現在の諸設備で木陰に靜かな澁みをたたえている湧水、孵化室の正面にある小さな古池、豊かな繁みに圍まれて住宅や倉庫が今後建てられて行くことと豫定されている。ここでは總計三百萬圓に及ぶ工事のうち約二百萬圓程度が出来たわけで、全部の竣工がなれば周圍に映えて随分と立派なものになるであらう。

式は正午新設の孵化室で行われた。

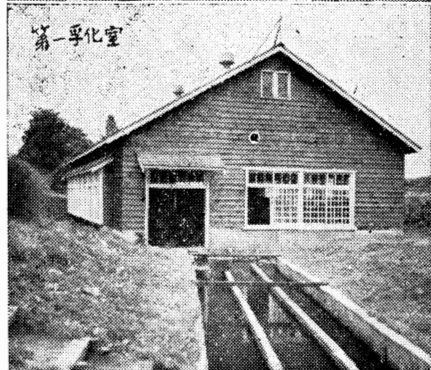
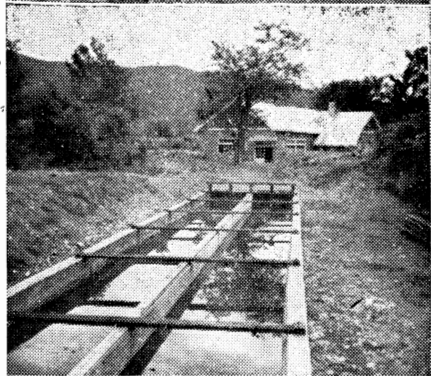
開式は佐藤技官によつてなされ、創立三十周年の式典として北海道水産孵化場長から次の様な式辭が幸内次長によつてのべられた。

湧別事業場は創立茲に三十周年を迎え、本日その式典を學ぶるに至りました事は洵に慶賀に堪えない處であります。

願うに、オコック海を包擁する北見國は、鮭鱒に恵まれ隨つて之れに注入する河川はその産卵床として

名を成して居る處も少くありませんが、就中吾が湧別川はその雄たるものであります。

然るに人工孵化によつて此の資源の維持増進を計らんとするの計畫は三十前已に識者によつて指導されたのであります。官に於てもその適地を調査されたのであります。當時適處を得られなかつたので、本川に關係の深い紋別養殖水産組合は現在の處に孵化場を設置し、苦心經營されたのであります。其後昭和九年、國營に移管と共に北見支場に昇格し、



水源地帯並に養魚池等の改修によつて面目一新され、孵化場としての體制を整へたのであります。

然るに昭和十八年事務連絡その他の便否を考慮され、支場は北見市に移轄されましたが、湧別孵化場は依然として北見國に於ける孵化事業上の重鎮であつたのであります。近年湧別及沿川に於ける有土は、本川に於ける人工孵化事業を重視し、その効果に期待し、積極的に孵化場の増設を企圖して官に協力せられ、時恰も官場創立三十周年式典に際し、茲に新たに一千万粒孵化の堂々たる孵化室の竣工を見た事は、正に二重の慶びであり、直に感激、堪えないところであります。

而して本孵化場の使命は之れに依つて重加せられ、職員諸氏は一層努力を要望されるの秋であります。冀くは各位一層、本事業を理解せられ、常に變らざる御協力御鞭撻に依り、目的達成に邁進せんと所期する次第であります。

次いで湧別川鮭鱒保護協力會長遠峯新三氏から新設孵化室の落成に對して、

戦後鮭鱒漁業の實狀に鑑み、鮭鱒漁業の將來に思を効すとき、其の資源維持培養の最も重要なるは、論を俟たず、之に對處する爲めには、特に孵化事業の

飛躍的増強の急速實現に依るの外なし。之れに應ふるべく、吾が湧別地區鮭鱒漁業關係者は、既設現存孵化施設而已を以て、晏如たるを得ず。昨春施設増強を速かに實施し、以て之に對ふる事こそ、夫れ責務なりと、機を逸せず、奮起以て相闘り、協力体制を整へ適地を求め、因つて其の來る所以を、各關係筋に披瀝懇請實現完遂に之れ勵めたり。

幸熱意空しからず、結果として各關係筋より絶大なる助成援助と、懇切なる指導協力を賜はる。

依つて昨秋着工し些の遲滞支障もなく、此所に其の竣工を見、孵化能力に一段の偉力を加へ、遺憾なく本事業の使命達成に邁進し得ると共に、鮭鱒資源の維持培養に完璧を期し、鮭鱒漁業將來の爲め、大なる貢獻を成し得ることは最も誇りとし、慶賀に堪へず。殊に我が國水産業の現状よりして、資源維持施設増強の要愈々切なる秋、今新裝成れる當場の裝容を眼のあたりにし、其の感激と欣び、更に新なるものを覺ゆ。眞に面目躍如たり。壯なりと謂ふべし。吾々關係者として、一人感深く欣も亦極めて大なり。寔に本懐とする所なり、是の光輝ある増設孵化場の工成れるは、地元鮭鱒關係業者の一致和合、強固なる協力体制の許、銳意之れに當りたるに因をなすと

雖も、北海道鮭鱒保護協力會連合會、北見鮭鱒協同組合の、絶大なる助成御援助、孵化場本場、支場、事業場の絶大なる指導御協力、湧別漁業協同組合、地主關係者の御協力、西村組の誠意ある工事請負完遂と併せて、有志各位の御協力等、各力の結集の賜ものに外ならず。衷心より感謝の念を捧げ、謹て謝意を表する次第なり。

如斯、御力副へに對し、關係者は飽迄本事業の使命達成に渾身之れ努め、以て之れに酬ゆる所存なり。

とのべられた後、感謝狀贈呈となり三十年間の歴史は孵化場長からの六氏、鮭鱒保護協力會連合會長からの十氏、湧別川協力會長からの十一氏に對する心からなる感謝を以てその一駒々々を意義づけるものとなつた。

次いで北見支場長石川氏から挨拶がなされ、盛會への感謝と、式典に包まれた感激とをのべた後、

北洋の資源地と、多數の孵化場を失つた今日、本道の資源に待つものが誠に大きいので御座いまして、此の要望に應える爲、昭和二十四年鮭鱒孵化事業五ヶ年計畫が樹てられまして、その目的達成の爲に、水系別による協力體制を組織して、資源の維持培養に一段と強化を計りまして、逐年目標突破の成果を

舉げて居ります。

此の時に當りまして、湧別川鮭鱒保護協力會及干係各位に於かれましては、逸早く事業の重大性を認識せられ、湧別川水系に孵化室の増設を計畫せられて、水源の調査に敷地の入手に撓まざる努力によりまして、茲に斯くも立派な一千万粒收容の孵化室が完成されました事は、干係各位の熱意と努力に深く敬意を表すると同時に、喜びに堪えぬ次第で御座います。此處に湧別川水系に二千万粒の施設が完備されました。今後一日も早く、再び擴張される事を祈る次第で御座います。

設備が如何に立派に出來ても之を活用する採卵が併行しなければなりません。卵の收容がなければ何の價値も御座いません。採卵については、今後充分研究と、努力を要しますので、各位の御協力と御鞭撻を御願ひ申し上げます。

湧別川で孵化放流事業を初めましてから、三十年になります。この施設を見るにつけ三十年前、不毛の地を切開いてこの事業を始められた先輩各位の熱意を忘れてはなりません。

當時、紋別鮭鱒養殖水産組合を組織され、自ら組合長として活躍せられました大西眞平氏を始め、孵化

技術に又經營によく難關を克服せられ、今日隆盛の基礎を築かれた、故山本勝見氏、亦當時孵化場敷地に對して、並々ならぬ御盡力を下された阿部四郎氏、既に故人となられた、遠峯榮次郎、黒田治助、中本長作、諸氏の涙ぐましい努力の結晶が今日をあらしめたものでありまして、之等の方々の功績に對しましては、満腔の敬意を表しますと共に、感謝に堪えない次第で御座います。

終りに臨みまして事業の目的を達成し孵化事業の堅實なる發達に御援助下さらんことを御願ひして、

と結んで今後一層の採卵を行ふ決意を語つた。その後水産廳、道知事はか十三氏の祝電披露があつて祝辭に移つた。

この日の祝辭は非常に意味深いものとなつて終はつている。それはたんなる形式でなくて話す人の心からなる想ひ出と感激、聞く者の胸をうつ襟迫感がかつて先人の勞苦を眼の邊りその人と處に見て感懷殊に新なもののをいだしめた。これについて林好次氏は最初に立つて「本道の鮭鱒孵化事業は七〇余年前から行はれているが、その當時は恐らく今の様な漁具、漁法を以て漁業が行はれはしなかつたらうし、又經濟價值も伴はなかつたらうと思はれる。然しその時に於て既に

今日あるを思い、孵化事業に邁進された人々があつたといふことは誠に感銘の深いものがある。その頃の先人の勞苦、又邊寒の地に勤務されました技術者の人達には心から頭の下がる思いが致します。」とのべ、次に立つた大西眞平氏をして一際光彩を放たせるものとした。

氏は七六才、小柄な老軀を壇上に運び「このお喜びの日にかいつまんで昔の話をして、お祝いと致します。」と靜かに語りはじめた。

私は下湧別で漁業を営んでおりましたが、鮭や鱒が段々少くなつて行く。これは何とかしなければいけないと思ひました。その後汽車が開通したので紋別に移り漁業會長になりましたから一層そのことを考へるようになりましたが、丁度札幌に出ました時に根室の小池さん、網走の野坂さんと同宿し、御相談したところ「それは人工孵化をしなければならぬ」と話され、一晚お話を聞いたが、何としても信じられない。この時にお二人は「私達の話が信じられないのなら是非千歳を見ろ」と言うので三人で千歳の孵化場を見にゆき、藤井場長の御案内を頂き、ゆつくりお話も何つて漸く信じられるようになりました。これがこの孵化場が創立された直接の動機です。

それから早速紋別に歸つて遠峯榮次郎さん、中村長作さん等に話しまして、信じられない人は除いて有志だけで貯金をはじめ、山本勝美さんの御好意を頂いて孵化事業をはじめた。

然し當時湧別川には一番地から七番地迄七つの漁業權があつて、その上でなければ捕獲が出来ない。これでは困るので道廳へ行つて話しまして、全部をこつちに許可してもらつて始めたが、干天で六〇〇粒より入らない。その後も不漁續きで一寸も収入があらぬ。職員の給料と事業の維持費は何うしてもかゝる。藤井さんからは五年から十年位は辛棒しなければならぬと云われたが、何うにもならなくなつて、當時の長官佐上信一氏の處へ行つて相談しました。その結果五年間は道の方で孵化事業をやつてくれることとなり、捕獲だけをやることになりましたが、その後はどん／＼とれる様になつて借金も返済出来ました。そして移管の際には喜んでお移しし今日となつた譯です。

語り終えた氏はまことに楽しそつた。温顔をほころばせて「今日の盛典を見てまことに喜ばしい」と結んで降壇した氏の温容に對して並いる百余名の參會者は心からの感謝と祝福の目を向けた。

次いで立つた遠峯氏も大西氏の言葉を語りついで。

氏は「中村、黒田、遠峯の三長老が大西氏を助けて進めた努力と、山本、小林兩氏の指導は忘れることが出来ない」とのべ、「かつて三十年前に誰も信頼しなかつたこの事業を進め、啓蒙し、努力を續けて来たことはまことに感激にたえない」と感涙し「吾々は先輩各位の立派な業績にむくいるために渾身の努力を盡したいと考えています」と感激的な語調で結び、前北見支場長だつた小林氏も又次の様にその頃の思い出を語つた。

當場は大正十二年七月、紋別鮭鱒養殖水産組合に依つて、一千万粒の孵化場が建設されたのであります。湧別川は名にし負ふ荒川であつて、親魚捕獲事業は河床の變化によつて年々其の位置を變へ、或は期間中度々裝置の流失の災危に會ひ、折角浜上する親魚もみす／＼逃逸してしまふ等、孵化場經營上他に其の例を見ない苦勞を重ねつゝも、良く其の目的を遂行せられ、更に進んで渚滑川、幌内川、元紋別川等にも孵化場を設置して、孵化事業に貢獻された當時の經營者に對して、満腔の敬意を惜しまないものであります。

而して昭和九年四月、全道民營孵化場が國營に移管

されまして、當場も同時に北海道廳虹別鮭鱒孵化場附屬別孵化場として新しく發足して現在の虹別支場の管轄下に入り、私は翌五月赴任したのであります。すが、當地を懐古して感慨無量のものがあります。

赴任當時は未だ民營孵化場其の儘の姿で、職員も二名のみでありましたが、同年七月末虹別孵化場から獨立して北海道鮭鱒孵化場北見支場となり、網走、宗谷、兩支廳管内の孵化場を統轄する事となり、秋には事務所も改築され、場員も、七、八名に増員して漸く支場としての体裁も整つたのであります。

昭和十六年一月、支場を野付牛町に移したので、湧別事業場となつたのでありますが、此の間約六年八ヶ月、春には裏山にワラビ刈りや、川での赤腹釣り、秋には、きのこ取りや、コクワ、ブドウ、などの收穫等、思ひ出は盡きません。又當時の大西組合長、大導寺主事、古屋憲吉氏や山本勝見氏等との交歡もまた、忘れ得ぬものがあります。

扱て、こうした先人によつて培はれた孵化事業への熱意が實を結び、湧別川保護協働會の絶大なる御協力によつて今回新しく一千万粒の孵化室を新築され、孵化事業の重大性漸く世人の注目を浴びつゝ、ある秋、又當湧別孵化場の齡も三十を數へて壯年期に

入らんとする際、愈々設備を充實して以つて、本事業飛躍への基礎を作られ、本日落成の式典を催された事は、眞に意義深いことで、我々孵化事業に職を奉ずる者は一致協力相共に獻身的な努力を誓ふと共に、當場の益々發展せらるゝ事を祈つて、粗辭ながら御祝の言葉と致します。

この感激的な式典を結んだのは阿部四郎氏である。氏は瘦軀を演壇に於めて最初の語に「今この席からながめて見ると知つた方は大西さんお一人で、まことに老骨になつたものと思ひます。」と述懐し、當時を語つて

かつて山本勝美氏は私に「孵化事業は海川から鮭をとつて國民に益するものであり、然も鮭はオコック海を廻つて再び歸るものであるところに非常に意義深いものがある。私はこの事業に専心するつもりであるので君も是非力を貸してくれ」と云つたことがある。私は全く共感しました。私も一生懸命やらう。

そして山本さんにもやつて頂こうと決心した次第です。

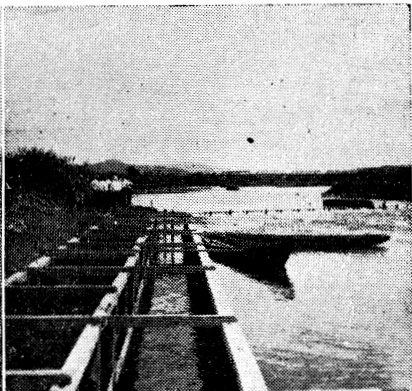
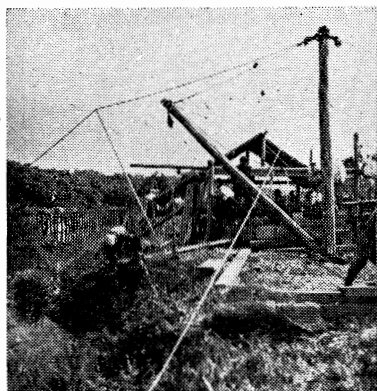
今や國の殖産は狭くなつて來ている。この秋に於て農業は田畑に、漁業は海川に専心その資源培養を圖らねばならない。



とのべて、二時間に及ぶ式典を閉じた。

會談の後下湧別採卵場を見て行事を終えたが、そこでは今や蓄養池をつくるのに懸命である。廣々とした河原の一劃を切つて巾三間、長さ二六間に及ぶ蓄養池が出来つゝある。水は河床に掘られた鑿井から入れられることとなつており、六インチポンプが二台その爲に設けられる。鱒三百の蓄養というが仲々に大變な工事で、完成後の活躍も容易に領かれるが、完成には未だ多くの問題があることであらう。湧別事業場はこの採卵場のほか中湧別、開盛と三採卵場をもつている。

長い夏の日も漸く冷しさを加えた頃、參會の人達は三々五々に散つていつた。豊穰なこのあたりには一面に麥の穂がゆれている。今年も又ここからは多くの作物と鱒や鮭が出されることであらう。そして今日の日多くの人々が大西さん達に心からなる祝福をおくつたその満たされた氣持を私達は又この田畑からも汲みとることが出来る。(秋庭)



3 事の中の下湧別採卵場蓄養池

下湧別採卵場

